<https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcsaj/41/4/41_143/_pdf/-char/ja>

北海道大学生の21名（男性7名，女性14名．年齢は20～ 24代が11名，25 ～ 29代が8名，30 ～ 34代が2名）が実験に参加した

・ライトトーン（高輝度、低彩度）の配色がビットトーン（低輝度、高彩度）やダークトーン（低輝度、低彩度）より好まれる。色相の構成ではY-G,Y-C,Y-Bがより好まれ、R-G,R-Bなどは嫌われる。

<https://muroran-it.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5111&item_no=1&page_id=13&block_id=21>

・明度差の値が 3.00 の配色で，かつ配色自体の明度が明るくなるほど，青年ユーザの操作の正確性が向上する可能性があることがわかった

・画面の色彩設計の構成色同士の明度、コントラストを低くし，寒色系の色彩を採用することによって，操作の迅速性，正確性と操作者の画面全体の印象への主観評価は高くなる可能性があることがわかった